

便通異常

恥ずかしがらず相談を

高沢胃腸科外科

高沢 信 先生

一言で便通異常といっても、下痢や便秘といったごく一般的な病態から、細菌やウイルスの感染による感染症腸炎や若年層を中心に非常に増えてきている過敏性腸症候群、やはり若年層に多く腹痛・下痢などを起こすクローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患、大腸・直腸がんによる排便習慣の変化や通過障害といったさまざまな病気があります。

過敏性腸症候群は、最近のストレス社会を反映して非常に増えてきている病気です。下痢や便秘などの便通異常を引き起こし、「おなかが痛い、おなかが鳴る、ガスがしょっちゅう出る」なども典型的な症状です。症状がひどくなると、いつ起こるか分からない便意の恐怖のため、電車などの乗り物に乗れなくなってしまったり、外出そのものが怖くてできなくなってしまったりすることもあり、本人にとっては非常に辛い病気です。強いストレスがある人や神経が細やかな人に多く見られます。

大腸がんについても少し触れておきましょう。現在、大腸がん検診として便潜血という検査が広く行われています。これは、安い費用で効果的にがんを見つけるためのもので、すべての大腸・直腸がんが発見されるわけではありません。近頃、便が出にくくなったとか、便柱が細くなってきたなどの排便習慣の変化を感じたら、きちんとバリウムや大腸内視鏡の精密検査を受けることが重要です。また、便潜血が異常であるのに「痔があるから」とか「大腸の検査は大変だから」といった理由で精密検査を受けず、数年後に非常に進行した大腸がんが見つかることはよくあります。便潜血で異常を指摘された場合には、必ず精密検査を受けるようにしてください。

排便は私たちの日常生活と非常に密接にかかわっています。恥ずかしいからと1人で悩まず、気軽に医療機関に相談してみてください。